

大阪 タイト感なおも解消せず強含み推移

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み。電炉筋の入荷促進に向けた価格対応が継続する反面、タイト化は改善される気配にないことで、市況の落ち着き先を見出しづらいま11月入りを迎えている。同地区電炉のH2実勢値は2万7500～2万8500円、新断バラ同2万9500～3万円(一部上値3万5000円)、銅グライ粉バラ同2万3500～2万5000円見当で推移。

地区内では先月31日から大阪製鉄と新関西製鉄が新断除き500円の値上げを打ち出し、先週にかけても水面下含めた電炉筋による価格対応が行われている。地区独自の需給を反映した上伸に対し、東京製鉄を中心に値動きが一切見られないなかでの値上がり局面に加え、一連の上昇によって、湾岸向け出荷メリットも後退へ向かっているため、「先月下旬からの荷動きを踏

まえば、ヤード滞留玉も相当あるはず。世界経済の不安定さも表面化し、海外の上昇ピッチもさほど早くないだけに、市中滞貨玉がいつ動き出してきても不思議ではない」(商社)との声が聞かれる。

ただ、今月生産は先月計画比で3万ト以上の増加となる27万ト前後が計画されるなかで、先週にかけても電炉筋によっては入荷が伸び悩み、タイト感を残したまま月替わりを迎えている。祝日操業後の在庫回復や今月の生産増に対して、電炉筋の多くは入荷レベルを落とすににくい環境にあることが、市中の先高観測を緩めにくいものとしており、「段階的に持ち上がるほどの力強さはないにせよ、需給からすれば、今週にかけても価格対応を迫られやすい展開にあるのでは」(ヤード業者筋)と市況一段高を期待する見方が多い。

イボキン シュレッダー後工程の選別ライン設備を更新

～SDGsの達成に向けて～

(兵庫) 総合リサイクル企業のイボキン(本社=兵庫県たつの市、高橋克実社長)は、後工程選別ラインの設備を更新し、11月から本格稼働を開始する。

今回更新したのはシュレッダーで破碎後に鉄などを取り除いた後(工程)の選別ライン。同社は昨年6月、シュレッダーを近畿工業製500馬力の堅型破碎機にリプレースし、その能力を最大限活かすための選別ラインが急務となったため設備一式を更新した。導入後の処理能力は破碎機と同じ約1.5倍の月間1,500ト。総工費は約5億円。設備の設計等は近畿工業が手掛けた。

同社の主力事業の一つである解体事業から発生する複合廃棄物や小型家電リサイクル法認定事業者(第7号)として近隣自治体等から回収する小型家電等の電子機器をシュレッダーで破碎。その後、前工程(磁選機)で取り切れなかった鉄およびアルミ・ステンレス・銅・基板などの非鉄金属や廃プラなどを磁選機・アルミ選別機・ふるい機・トムラソーティング製の最新鋭選別機(ファインダー)で選別。ファインダーはコンベア幅2,400mmで従来よりも大型の機械を導入し、ミックスメタルを高精度な原料に加工する選別システムを確立

した。機械設備更新により、今後需要増が見込まれる小型家電や複合廃棄物の適切な処理と生産性の向上、さらに各種金属やプラスチック類を永続的に利用できる循環資源に寄与し、同社が取り組むSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成に貢献することを目指す。



導入した選別ライン設備

同社は鉄・非鉄スクラップをはじめ、解体工事・ELV・小型家電・プラスチック・木屑など、解体撤去からリサイクル・最終処分に至るまで全ての工程をワンストップサービスで展開する総合リサイクル企業。多種多様な資格を持ち、優良産廃処理業者にも認定されている。1999年にはISO14001を取得。2018年8月には東京証券取引所ジャスダック市場に新規上場した。事業所は本社工場をはじめ龍野工場(たつの市)、阪神事業所(兵庫県尼崎市)、東京支店(東京都千代田区)など。さらに今年10月に福島支店(福島県双葉郡富岡町)を新規開設した。

共英製鋼 米国子会社が鉄球事業強化に向け合弁会社設立

共英製鋼は米国子会社ビントン・スチール(北田正宏社長)は世界最大の鉾山向け鉾石粉砕鉄球の製造・販売企業Molycopグループと鉄球の製造・販売に関する合弁事業を11月2日より開始することを発表した。

共英製鋼は今年3月にMolycopグループを傘下とするAIP社からカナダのアルタ・スチールを買収し、同グループと鉾山向け鉄球事業の関係強化を図ってきた。同じく、鉄球の製造、販売を手掛けるビントン・スチールの北米における鉄球事業のさらなる強化のため、

合弁事業を開始することを決めた。

合弁会社のビントン・ボール(Vinton Ball LLC、米国テキサス州、代表者=テイラー・スミス)の資本金は10万ドル(約1050万円)。MolycopグループのGrinding Media Inc.が51%、ビントン・スチールが49%を出資する。ビントン・スチールでは事業開始に伴い、ビントン・ボールに設備、人員を除く鉄球の製造・販売事業を移管する。